

キヤノンマシナリー (コード 6344 大証 2 部)

業績推移(連結) (予想数値は会社発表分) 配当性向は連結ベース。単位:百万円, %, 円

決算期	売上高		経常利益		一株当たり		配当性向	売上高 経常利益率
		増減率		増減率	純利益	配当		
08.12	36,541	+50.7	4,030	+24.9	296.1	25.0	8.4	11.0
09.12	27,104	-25.8	915	-77.3	98.3	10.0	10.2	3.4
10.12(予)	27,500	+1.5	1,070	+16.9	83.1	未定	-	3.9

キヤノングループの FA 装置・半導体製造装置メーカー

特色...事務機器(プリンターやコピー機など)関連製品の生産設備など FA(ファクトリー・オートメーション)装置や、半導体製造における後工程設備(ダイボンダーなど)の開発・製造・販売を手がけている。ダイボンダーで国内シェア首位。キヤノングループ。

09 年 12 月期は 2 ケタ減収減益に

産業界の設備投資抑制で大幅減収減益...09 年 12 月期は、上表のように売上高、経常利益とも 08 年 12 月期に比べて 2 ケタの減少となったが、09 年 10 月時点における予想(売上高 270 億円、経常利益 8 億 1,000 万円)をやや上回った。事業別売上では、第 2 四半期までの受注軟調の影響が大きいセミコンシステム事業は 40 億 800 万円(08 年 12 月期比 47.9%減)と大きく落ち込んだのに対し、FA システム事業が 230 億 9,600 万円(同 19.9%減)と厳しい事業環境の中で健闘した。セミコンシステム事業については、第 3 四半期以降、LED 関連に対応する「BESTEM-D01」シリーズの受注が上向きに推移し、同事業全体でも業績回復傾向が進展したものの、第 2 四半期までの需要低迷が大幅な売上減に。このうち、ボンディング関連設備売上は約 34 億 2,000 万円(同 50.2%減)、半導体関連設備売上が約 5 億 9,000 万円(同 28.9%減)となった。一方、FA システム事業では、産業界の設備投資抑制の影響で小型二次電池関連設備の需要が低調に推移したため、メカトロ設備関連売上は約 35 億 5,000 万円(同 46.4%減)となったが、事務機器関連設備売上(キヤノン向け)は高水準の受注残をこなし約 195 億 4,000 万円(同 12.1%減)と健闘。

今 12 月期は一転して増収増益へ

緩やかに業績回復へ...2010 年 12 月期については、売上高が前期比 1.5%増、経常利益も同 16.9%増と、緩やかながら業績回復が見込まれている。事業部門別の売上予想は、FA システム事業が 190 億円(前期比 17.7%減)にとどまりそうなのに対し、セミコンシステム事業は 85 億円(同 112.1%増)に急拡大しそう。FA システム事業においては、自動車用二次電池設備の受注増などからメカトロ関連売上が 61 億円(同 71.8%増)に伸びる見込みだが、前期の受注が 08 年 12 月期比で 74.2%も落ち込んだ影響もあって事務機器関連売上は 129 億円(同 34%減)に、売上構成比率も 46.9%(前期:72.1%)へ低下しそう。一方、セミコンシステム事業では、LED 関連需要の好調などからボンディング設備売上が 74 億 5,000 万円(前期比 117.8%増)へ、半導体市場の回復傾向から半導体関連設備売上も 10 億 5,000 万円(同 78%増)へと大きく伸びそうで、セミコンシステム事業の売上構成比率は 30.9%(前期:14.8%)に高まる見通し。

本レポートは、証券投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、証券の売買を勧誘する目的で作成したものではありません。株式の売買取引には、約定代金に対して手数料が必要となります。また、株式は、株価の変動により損失が生じる恐れがあります。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断でなさいますようお願い致します。本レポートは各種データに基づいて作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありませんので、予めご了承下さい。なお、本レポートの著作権は西村証券に帰属しており、電子的・機械的などの方法を問わず、無断で本レポートを引用または複製、転送することを禁じます。